



ベラス

老女や少年の表情はリアルだ。鍋の中で漂う玉子の固さやメロンの傷ま

まう。(1618年、油彩、カンバス、99×128

シヨナルギャラリー蔵) ユニフォトプレス提供

化

文

歴史好きが高じて法政大 学文学部日本史学科の通 信教育課程に入学。卒業 論文のテーマに選んだの が、幕末・明治に活躍し た会津出身の政治家柴四 朗と、軍人五郎の「柴兄 弟」だった。五郎が残し た記録をまとめた「ある 明治人の記録」(中公新 書)が好きで、彼らにつ

いて調べたいと考えた。 緒方洪庵や福沢諭吉ら、 相当の知識人である。そ れなのに山東の名は知ら れていない。なぜか。好 奇心が湧いてきた。

私は卒論をベースに、 柴兄弟の評伝「明治の兄 弟」(文芸社)を出版。 その調査が一段落した07 年ごろから山東について 本格的に調べ始めた。し

かし、関連の文献はとて も少なく、一次史料を地 道に探すほかなかった。 高野山で仏門に入る 山東は紀伊で生まれ、 12歳の頃に高野山で仏門 に入った後、学問に目覚 める。その後、北の交易 の玄関口だった箱館で役 人として勤務。ロシア語

として、連絡・調整役を 担った。龍馬との交流は 5カ月ほどだが、山東は 龍馬を介して後藤や陸奥 とも出会っている。 山東が役人をしていた ことは、調査の上では幸 이었다。役人なら彼が 関わった公文書が残され ている可能性があるから だ。国立国会図書館のデ ジタルアーカイブや国立 公文書館、法政大学など を中心に調査。早稲田大 学や明治大学の公開講座

の魅力を。 一方、陸奥は陰謀事件 の嫌疑をかけられ、18 78年に投獄された。そ の間、山東は陸奥の家族 との連絡や世話に奔走。 出所の際は陸奥を出迎え るなど信頼を得ていた。 山東自身は陸奥と違い政 治家にはならず、陸奥が 外相を務めた時も正式の 秘書ではない。しかし、 陸奥が亡くなった時に葬 儀を取り仕切るなど、終 生の盟友だった。私利私 欲なく、純粹に国を良く したいという思いで動い たのだろう。 山東の生涯をたどるつ

ち、参院議員の山東昭子 さんが子孫にあたること がわかった。昭子さん自 身は直砥のことをよくご 存じだが、彼について調 べる私のような者は珍し いという。山東家に受け 継がれている直筆の屏風 を見せていただいた。 これらの成果は山東が 若い頃名乗った名「二郎」 にちなみ「明治の二郎 山東直砥」(百年書房) という本にまとめた。私 の興味は芋づる式に広が っており、さらに知られ ざる歴史を掘り起こした い。(なかい・けやき 評伝作家)

「陸奥の懐刀」維新切り開く

◇紀伊出身の教育者、山東直砥を調査し本に◇

中井 けやき

塾運営も無名の人物 柴兄弟を調べるうち に、四朗が学んだ「北門 社新塾」を営んでいた山 東直砥という人物を知っ た。塾の運営者といえ

ば だ。知名度は低いが、同 郷の陸奥宗光と親しく 「陸奥の懐刀」と言われ た。私は10年ほど前から 山東を調べてきた。

私は歴史学者や研究者 ではなく、パートなどで 働きながら生活する一介 の主婦だ。30年ほど前、



書物を読む山東直砥

を勉強し、物産方として 輸入業務にも携わった。 日本で初めて西洋バラを 輸入したこともある。 彼は箱館に赴任したこ とを機に長崎に赴き、坂 本龍馬と出会う。役人の 業務の傍ら、龍馬が立ち 上げた海援隊の「裏方」

料を集めた。目算通り、 に通って大学図書館を利 用できる「権利」を得る など、あらゆる手段で史 料を集めた。目算通り、



山奥が残した公文書が断 片的に残っていた。 神奈川副知事に 山東は箱館の役人を辞 した後、東京で北門社新 塾を運営。さらに神奈川 県知事に就任した陸奥の 推薦で、横浜に役人とし て赴任した。横浜は最重 要港湾の一つ。政府や外 国との交渉・調整役を担 い、有力者との人脈を広 げた。その後、参事(副 知事)に昇格。箱館、横 浜での経験は人生に大き な影響を与えた。

1875年に役人生活 に見切りをつけ、出版に のめり込む。英語の辞書 など刊行。執筆者の多 くが山東の当時の住まい である芝公園(東京都港 区)周辺に住んでいた。 自宅は慶応義塾を創設し た福沢諭吉の家のそば で、2人は意気投合。後 藤も山東と自宅が近く交 流を深める。渋沢栄一と も親しく、政治家、実業 家、教育者などんな人の 懐にも飛び込めるのが彼